

## はじめに

この報告書は、お茶の水女子大学学生支援センターが、平成 23 年度新入学生（学部）とその保護者を対象に実施した調査の第一次報告である。調査は、文部科学省特別経費プロジェクト「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」の一環として実施した。調査内容は、出身高校、家族、志望動機、進路選択、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（以上入学生調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（以上保護者調査）など多岐にわたる。いずれも、大学生活の基盤や大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することが目的である。

本学において、学生の保護者を対象とした公的調査が行われた記録は手元には存在しない。少なくとも、保護者の社会階層的基盤、とりわけ世帯所得に関する保護者調査ははじめて実施されたものと推測する。世帯所得を学生に尋ねた調査は、平成 5 年度『学生生活実態調査報告書』（お茶の水女子大学学生委員会）にまでさかのぼる。

この古い調査報告書の中に、「学部学生の家庭の年間所得総額は…1112 万 7800 円で、全国平均 798 万円と比べると 1.39 倍」に達するとの記述がある。今回の調査でも、本学学生の出身家庭の所得は、国立大学・女子の年間平均所得を、さらに私立大学をも含めた年間平均所得を上回るという結果が得られている。ただ他方で、年間所得 600 万円未満の階層出身学生も全体の 2 割を占め、年収の分化傾向が現れている。

卓越した能力と努力に恵まれた女子学生に、高等教育機会を提供していくために、どんな学生支援策が必要とされ、また有効なのか。現在実施されている施策は、意図した効果を持っているのか。また学生や保護者のニーズをどの程度充足しているのか。これらの問いに答え、効果的・効率的な学生支援政策を実行するためには、まずもって実態をつぶさに捉えるためのデータ収集が不可欠となる。高等教育機関において昨今 IR(Institutional Research)の重要性が叫ばれる所以である。

この調査報告が、有効利用されることを期待したい。

この調査を実施することができたのは(そして相対的に高い回収率で成功裡に実施することができたのは)、まずもって本年度新入学生とその保護者のご協力による。この報告書の執筆を担当した望月、桂、三枝各氏とともに、感謝を申し述べたい。

平成 23 年 9 月 吉日

国立大学法人お茶の水女子大学 理事・副学長  
学生支援センター長 耳塚寛明

## 目次

調査の概要	2
1. 「新入生調査」の結果報告	4
(1) 出身高校	4
(2) 家族構成	7
(3) 本学への志望	10
(4) これまでの進路選択や学校生活	15
(5) 大学入学後の生活の予定	20
(6) 将来の進路	29
2. 「新入生保護者調査」の結果報告	35
(1) 家庭の暮らし向き	35
(2) 親の職業・学歴	39
(3) 大学入学後の経済・生活支援	42
(4) 大学生活の不安・心配事	45
3. 新入生および保護者調査の結果報告 ―奨学金・学生寮に関する集計結果―	48
(1) 問題・目的	48
(2) 方法	48
(3) 奨学金に関する結果	49
(4) 学生寮に関する結果	55
(5) 考察と今後の課題	60
(6) まとめ	61
付表	
1. 調査票（新入生調査）	1
2. 調査票（保護者調査）	11
3. 基礎集計表（新入生調査）	17
4. 基礎集計表（保護者調査）	30
5. 合格大学・学部集計表	35

## 執筆担当者

- 耳塚 寛明（副学長・教育機構長、学生支援センター長） 担当：はじめに  
望月 由起（学生支援センター 准教授） 担当：調査の概要、1章、2章、付表1・2  
桂 瑠以（学生支援センター 講師） 担当：3章  
三枝 博明（学生支援センター アカデミックアシスタント） 担当：付表3・4・5